



西新潟中央病院

NST NEWS 第109号

NST: Nutrition Support Team

発行日：2023年10月4日

担当：NST委員会

編集：栄養管理室

連絡先：内線 1302

NSTミニレクチャー第78回 ～味覚障害について～



月に1度の栄養の勉強、NSTミニレクチャーのコーナーです。

味には5つの基本味（苦味・酸味・甘味・塩味・うま味）があります。その他にも味を感じるためには匂いなども関係していますが、今回は味覚障害についてお話していきます。



味覚障害とは

味覚は主に舌で感じます。味覚障害の症状はさまざま、部分的には舌の一部や片側が、また舌全体が味覚を感じないことがあります。その程度も濃い味でないと感じないもの（味覚減退）や、全く味を感じないもの（味覚消失）があります。さらに、本来の味を異なった味に感じる（錯味）もあります。薬を飲んだことによっておこる薬物性味覚障害では、全体的に味を感じなくなる、あるいは一部の味が低下する症状がよく見られます。原因となる薬には降圧薬、消化性潰瘍治療薬、抗うつ薬、抗菌薬、抗がん薬、免疫抑制剤などがあります。亜鉛キレート作用（亜鉛の吸収を抑制する作用）のある薬や唾液分泌をおさえる薬に味覚障害が起こりやすいと考えられています。



早期に認められる症状

薬物性味覚障害は高齢者に多く、複数の薬剤を服用しており、また発症までの時間や症状もまちまちで、初期の症状を捉えることは困難なことが多いようです。初期症状を含め、よく訴える症状に以下のようなものがあります。

味（甘、塩、酸、苦）が感じにくい	金属味や渋味など、嫌な味がする
食事が美味しくない	味のしないところがある
食べ物の好みが変わった	口が渇く

自覚症状

味覚障害の症状はその多くが自覚症状で、その症状は以下のように分類されています。薬物性味覚障害では、「味覚減退」、「異味症・錯味症」、「自発性異常味覚（苦味や渋味）」などが多く、進行すると「味覚消失・無味症」に至ることもあるようです。

味覚減退	味が薄くなった、味を感じにくい
味覚消失・無味症	全く味がしない
解離性味覚障害	甘みだけがわからない
異味症・錯味症	しょう油が苦く感じる
悪味症	何を食べても嫌な味になる
味覚過敏	味が濃く感じる
自発性異常味覚	口の中に何も無いのに苦みや渋みを感じる
片側性味覚障害	一側だけの味覚障害